

対象年度	H16	作成部課室	保健福祉部健康対策課	関係部課室	保健福祉部業務課
------	-----	-------	------------	-------	----------

A - 1 - 1 政策と施策の関係・施策の体系:規則 § 6 1号関連

政策番号	1-1-5	政策名	生涯を健康に暮らすための健康づくりと病気の予防への取組
------	-------	-----	-----------------------------

政策概要	健康が日々の豊かな生活のみなものであることから、一人ひとりが生涯にわたって質の高い生活を送れるよう、ふだんの健康づくりや病気の予防、個々人の状態に応じた健康の増進・維持を目指します。
------	---

施策番号	施策名 施策概要	政策評価指標
1	健康づくりに関する意識の向上 一人ひとりが生きがいを持ち、充実した人生を健やかに安心して暮らせるよう健康づくりに関する積極的な意識の啓発を図ります。	・健康寿命(65歳時の平均自立期間)
2	生活習慣病の早期発見と予防 生涯を通じて健康な生活が送れるよう、食習慣、運動習慣、喫煙、飲酒などの生活習慣が関わるがん、心臓病、高血圧、糖尿病などの生活習慣病について、早期発見や予防などの適切な対策を講じます。	・健康寿命(65歳時の平均自立期間)
3	歯と歯ぐきの健康づくり 80歳になっても20本以上の自分の歯を保つことを目標とした「みやぎ8020運動」の達成が図れるよう、一人ひとりの健康状態やライフスタイルに応じた歯と歯ぐきの健康づくりを目指します。	
4	結核等感染症の予防と正しい知識の普及 結核やインフルエンザ、0 - 157等の感染症の予防及びまん延の防止を図るとともに、感染症に対する正しい理解のための普及啓発を進めます。	
5	難病患者等の健康維持の支援 原因が不明で治療方法が確立されていない病気の患者や原爆被爆者がこれまでと同じように住み慣れた地域で療養でき、健康が維持できる支援体制づくりを目指します。	
6	地域リハビリテーションサービスの提供 年齢を重ねることにより体力が衰えた方や身体に障害を有する方が、住み慣れた地域でいきいきと暮らしていけるように、その方に応じた各分野のリハビリテーションサービスが総合的に提供できる体制づくりを目指します。	・健康寿命(65歳時の平均自立期間)
7	薬物乱用防止啓発活動の推進 地域において、麻薬、覚せい剤、シンナー等の薬物乱用防止の啓発活動を展開し、乱用の未然防止を図り、明るく健康的で住みよい地域づくりを目指します。	

A - 1 - 2 県民満足度(政策)の推移:規則 § 6 1号関連

(単位:点)

	第1回(H13)	第2回(H14)	第3回(H15)	第4回(H16)	
重視度(中央値) A	75	75	75	70	
満足度(中央値) B	60	60	60	60	
かい離 A-B 【かい離度】	15 【中】	15 【中】	15 【中】	10 【中】	

かい離:極めて高い(40点以上),非常に高い(30点以上~40点未満),高い(20点以上~30点未満),中(10点以上~20点未満),低い(10点未満)

A - 1 施策群設定の妥当性:規則 § 6 1号

適切	概ね適切	課題有
----	------	-----

A-1-1 【政策目的に沿った施策か】おおむね適切 ・生涯を健康に暮らすためには、健康を増進し発病を予防する「一次予防」、疾病の早期発見・早期治療を図る「二次予防」、疾病の適切な治療や機能の回復・維持を図る「三次予防」に係る対策を推進していく必要がある。 ・各施策の概要は上記記載のとおりであり、政策を実現するため7施策全てが必要と認められる。
【施策の重複・矛盾点の有無】適切 ・目的、対象者に応じた事業が適切に設定されており、重複や目的が矛盾する事業はない。
A-1-2, A-1-3 【県民満足度・社会経済情勢から見て必要か】適切 ・重要度が70、県民満足度は60と高い。施策毎では、社会経済情勢や施策満足度等の結果から全ての施策の必要性が高いことが認められる。特に、優先度の高い施策1, 2, 6を必要性「大」とした。

A - 1 - 3 一般県民満足度の推移と社会経済情勢(施策毎):規則 § 6 1号関連

施策番号	一般県民満足度調査結果(施策)			社会経済情勢に適合した施策か	必要性総括	
	優先度(直近の3回)	県民が必要と感じているか( )				
1	第4回 23.6%	2位	・本施策の優先度は7施策中2位である。 ・本施策のかい離は20点と高い。 【結論】 必要性: かなり感じている	・急激な高齢化とともに生活習慣病に起因した寝たきり等の要介護者が増加しており、心身ともに健康で生きがいのある生活を送るためには、これまでも増して健康を増進し、病気を予防するための県民一人ひとりの主体的な健康づくりを支援することが必要である。 ・急激な高齢化とともに疾病全体に占める生活習慣病の割合は増加しており、生活習慣病の早期発見と予防対策が従来にも増して重要な課題となっている。 ・県民一人ひとりの主体的な取組を支援し、発病を予防する一次予防及び健診等による病気の早期発見・早期治療を図る二次予防を推進することが必要である。 ・平均寿命の大幅な伸びにより人生80年時代を迎え、歯と歯ぐきの健康は生活の質の向上に重要な要件である。 ・「みやぎ8020運動」を推進し、県民一人ひとりの健康状態やライフステージに対応した歯と歯ぐきの健康づくりを推進していくことが必要である。 ・結核は我国最大の感染症の一つであり、再興感染症として今後の増加の懸念が指摘されている。 ・加えて、インフルエンザやO-157等の感染症は、流行時には多数の罹患を示すものであり、県民の健康に与える影響も大きいことから、引き続き、結核・感染症の予防と正しい知識の普及啓発を図ることが必要である。 ・難病患者は増えてきており、住み慣れた地域で安心して生活できる環境づくりが求められていることから、引き続き支援していくことが必要である。 ・ノーマライゼーションの理念の下、高齢者・障害者が地域の中で当たり前の生活を送ることを可能にすることが求められている。 ・そのためには、各地域におけるリハビリテーションサービス供給体制の整備を目指す本施策が必要である。 ・覚せい剤等の薬物乱用は、一般市民層への浸透、青少年の乱用や主婦等女性検挙者の増加傾向が顕著になってきている。また、薬物乱用者の低年齢化も深刻な社会問題になっている。従って、本施策を継続的に取り組む必要があると考えられる。	大	
	第3回 23.8%	2位				
	第2回 24.3%	2位				
2	43.5%	1位	・本施策の優先度は7施策中1位である。 ・本施策のかい離は20点と高い。 【結論】 必要性: かなり感じている		・急激な高齢化とともに生活習慣病に起因した寝たきり等の要介護者が増加しており、心身ともに健康で生きがいのある生活を送るためには、これまでも増して健康を増進し、病気を予防するための県民一人ひとりの主体的な健康づくりを支援することが必要である。 ・急激な高齢化とともに疾病全体に占める生活習慣病の割合は増加しており、生活習慣病の早期発見と予防対策が従来にも増して重要な課題となっている。 ・県民一人ひとりの主体的な取組を支援し、発病を予防する一次予防及び健診等による病気の早期発見・早期治療を図る二次予防を推進することが必要である。 ・平均寿命の大幅な伸びにより人生80年時代を迎え、歯と歯ぐきの健康は生活の質の向上に重要な要件である。 ・「みやぎ8020運動」を推進し、県民一人ひとりの健康状態やライフステージに対応した歯と歯ぐきの健康づくりを推進していくことが必要である。 ・結核は我国最大の感染症の一つであり、再興感染症として今後の増加の懸念が指摘されている。 ・加えて、インフルエンザやO-157等の感染症は、流行時には多数の罹患を示すものであり、県民の健康に与える影響も大きいことから、引き続き、結核・感染症の予防と正しい知識の普及啓発を図ることが必要である。 ・難病患者は増えてきており、住み慣れた地域で安心して生活できる環境づくりが求められていることから、引き続き支援していくことが必要である。 ・ノーマライゼーションの理念の下、高齢者・障害者が地域の中で当たり前の生活を送ることを可能にすることが求められている。 ・そのためには、各地域におけるリハビリテーションサービス供給体制の整備を目指す本施策が必要である。 ・覚せい剤等の薬物乱用は、一般市民層への浸透、青少年の乱用や主婦等女性検挙者の増加傾向が顕著になってきている。また、薬物乱用者の低年齢化も深刻な社会問題になっている。従って、本施策を継続的に取り組む必要があると考えられる。	大
	42.6%	1位				
	44.5%	1位				
3	3.5%	7位	・本施策の優先度は7施策中7位である。 ・本施策のかい離は29.5点と高い。 【結論】 必要性: ある程度感じている			・急激な高齢化とともに生活習慣病に起因した寝たきり等の要介護者が増加しており、心身ともに健康で生きがいのある生活を送るためには、これまでも増して健康を増進し、病気を予防するための県民一人ひとりの主体的な健康づくりを支援することが必要である。 ・急激な高齢化とともに疾病全体に占める生活習慣病の割合は増加しており、生活習慣病の早期発見と予防対策が従来にも増して重要な課題となっている。 ・県民一人ひとりの主体的な取組を支援し、発病を予防する一次予防及び健診等による病気の早期発見・早期治療を図る二次予防を推進することが必要である。 ・平均寿命の大幅な伸びにより人生80年時代を迎え、歯と歯ぐきの健康は生活の質の向上に重要な要件である。 ・「みやぎ8020運動」を推進し、県民一人ひとりの健康状態やライフステージに対応した歯と歯ぐきの健康づくりを推進していくことが必要である。 ・結核は我国最大の感染症の一つであり、再興感染症として今後の増加の懸念が指摘されている。 ・加えて、インフルエンザやO-157等の感染症は、流行時には多数の罹患を示すものであり、県民の健康に与える影響も大きいことから、引き続き、結核・感染症の予防と正しい知識の普及啓発を図ることが必要である。 ・難病患者は増えてきており、住み慣れた地域で安心して生活できる環境づくりが求められていることから、引き続き支援していくことが必要である。 ・ノーマライゼーションの理念の下、高齢者・障害者が地域の中で当たり前の生活を送ることを可能にすることが求められている。 ・そのためには、各地域におけるリハビリテーションサービス供給体制の整備を目指す本施策が必要である。 ・覚せい剤等の薬物乱用は、一般市民層への浸透、青少年の乱用や主婦等女性検挙者の増加傾向が顕著になってきている。また、薬物乱用者の低年齢化も深刻な社会問題になっている。従って、本施策を継続的に取り組む必要があると考えられる。
	2.8%	7位				
	3.5%	5位				
4	3.9%	6位	・本施策の優先度は7施策中6位である。 ・本施策のかい離は26点と高い。 【結論】 必要性: ある程度感じている	・急激な高齢化とともに生活習慣病に起因した寝たきり等の要介護者が増加しており、心身ともに健康で生きがいのある生活を送るためには、これまでも増して健康を増進し、病気を予防するための県民一人ひとりの主体的な健康づくりを支援することが必要である。 ・急激な高齢化とともに疾病全体に占める生活習慣病の割合は増加しており、生活習慣病の早期発見と予防対策が従来にも増して重要な課題となっている。 ・県民一人ひとりの主体的な取組を支援し、発病を予防する一次予防及び健診等による病気の早期発見・早期治療を図る二次予防を推進することが必要である。 ・平均寿命の大幅な伸びにより人生80年時代を迎え、歯と歯ぐきの健康は生活の質の向上に重要な要件である。 ・「みやぎ8020運動」を推進し、県民一人ひとりの健康状態やライフステージに対応した歯と歯ぐきの健康づくりを推進していくことが必要である。 ・結核は我国最大の感染症の一つであり、再興感染症として今後の増加の懸念が指摘されている。 ・加えて、インフルエンザやO-157等の感染症は、流行時には多数の罹患を示すものであり、県民の健康に与える影響も大きいことから、引き続き、結核・感染症の予防と正しい知識の普及啓発を図ることが必要である。 ・難病患者は増えてきており、住み慣れた地域で安心して生活できる環境づくりが求められていることから、引き続き支援していくことが必要である。 ・ノーマライゼーションの理念の下、高齢者・障害者が地域の中で当たり前の生活を送ることを可能にすることが求められている。 ・そのためには、各地域におけるリハビリテーションサービス供給体制の整備を目指す本施策が必要である。 ・覚せい剤等の薬物乱用は、一般市民層への浸透、青少年の乱用や主婦等女性検挙者の増加傾向が顕著になってきている。また、薬物乱用者の低年齢化も深刻な社会問題になっている。従って、本施策を継続的に取り組む必要があると考えられる。		
	4.3%	5位				
	3.3%	7位				
5	5.9%	4位	・本施策の優先度は7施策中4位である。 ・本施策のかい離は30点と非常に高い。 【結論】 必要性: ある程度感じている		・急激な高齢化とともに生活習慣病に起因した寝たきり等の要介護者が増加しており、心身ともに健康で生きがいのある生活を送るためには、これまでも増して健康を増進し、病気を予防するための県民一人ひとりの主体的な健康づくりを支援することが必要である。 ・急激な高齢化とともに疾病全体に占める生活習慣病の割合は増加しており、生活習慣病の早期発見と予防対策が従来にも増して重要な課題となっている。 ・県民一人ひとりの主体的な取組を支援し、発病を予防する一次予防及び健診等による病気の早期発見・早期治療を図る二次予防を推進することが必要である。 ・平均寿命の大幅な伸びにより人生80年時代を迎え、歯と歯ぐきの健康は生活の質の向上に重要な要件である。 ・「みやぎ8020運動」を推進し、県民一人ひとりの健康状態やライフステージに対応した歯と歯ぐきの健康づくりを推進していくことが必要である。 ・結核は我国最大の感染症の一つであり、再興感染症として今後の増加の懸念が指摘されている。 ・加えて、インフルエンザやO-157等の感染症は、流行時には多数の罹患を示すものであり、県民の健康に与える影響も大きいことから、引き続き、結核・感染症の予防と正しい知識の普及啓発を図ることが必要である。 ・難病患者は増えてきており、住み慣れた地域で安心して生活できる環境づくりが求められていることから、引き続き支援していくことが必要である。 ・ノーマライゼーションの理念の下、高齢者・障害者が地域の中で当たり前の生活を送ることを可能にすることが求められている。 ・そのためには、各地域におけるリハビリテーションサービス供給体制の整備を目指す本施策が必要である。 ・覚せい剤等の薬物乱用は、一般市民層への浸透、青少年の乱用や主婦等女性検挙者の増加傾向が顕著になってきている。また、薬物乱用者の低年齢化も深刻な社会問題になっている。従って、本施策を継続的に取り組む必要があると考えられる。	
	6.5%	4位				
	6.1%	4位				
6	14.3%	3位	・本施策の優先度は7施策中3位である。 ・本施策のかい離は30点と非常に高い。 【結論】 必要性: かなり感じている			・急激な高齢化とともに生活習慣病に起因した寝たきり等の要介護者が増加しており、心身ともに健康で生きがいのある生活を送るためには、これまでも増して健康を増進し、病気を予防するための県民一人ひとりの主体的な健康づくりを支援することが必要である。 ・急激な高齢化とともに疾病全体に占める生活習慣病の割合は増加しており、生活習慣病の早期発見と予防対策が従来にも増して重要な課題となっている。 ・県民一人ひとりの主体的な取組を支援し、発病を予防する一次予防及び健診等による病気の早期発見・早期治療を図る二次予防を推進することが必要である。 ・平均寿命の大幅な伸びにより人生80年時代を迎え、歯と歯ぐきの健康は生活の質の向上に重要な要件である。 ・「みやぎ8020運動」を推進し、県民一人ひとりの健康状態やライフステージに対応した歯と歯ぐきの健康づくりを推進していくことが必要である。 ・結核は我国最大の感染症の一つであり、再興感染症として今後の増加の懸念が指摘されている。 ・加えて、インフルエンザやO-157等の感染症は、流行時には多数の罹患を示すものであり、県民の健康に与える影響も大きいことから、引き続き、結核・感染症の予防と正しい知識の普及啓発を図ることが必要である。 ・難病患者は増えてきており、住み慣れた地域で安心して生活できる環境づくりが求められていることから、引き続き支援していくことが必要である。 ・ノーマライゼーションの理念の下、高齢者・障害者が地域の中で当たり前の生活を送ることを可能にすることが求められている。 ・そのためには、各地域におけるリハビリテーションサービス供給体制の整備を目指す本施策が必要である。 ・覚せい剤等の薬物乱用は、一般市民層への浸透、青少年の乱用や主婦等女性検挙者の増加傾向が顕著になってきている。また、薬物乱用者の低年齢化も深刻な社会問題になっている。従って、本施策を継続的に取り組む必要があると考えられる。
	15.3%	3位				
	14.1%	3位				
7	4.6%	5位	・本施策の優先度は7施策中5位である。 ・本施策のかい離は30点と非常に高い。 【結論】 必要性: ある程度感じている	・急激な高齢化とともに生活習慣病に起因した寝たきり等の要介護者が増加しており、心身ともに健康で生きがいのある生活を送るためには、これまでも増して健康を増進し、病気を予防するための県民一人ひとりの主体的な健康づくりを支援することが必要である。 ・急激な高齢化とともに疾病全体に占める生活習慣病の割合は増加しており、生活習慣病の早期発見と予防対策が従来にも増して重要な課題となっている。 ・県民一人ひとりの主体的な取組を支援し、発病を予防する一次予防及び健診等による病気の早期発見・早期治療を図る二次予防を推進することが必要である。 ・平均寿命の大幅な伸びにより人生80年時代を迎え、歯と歯ぐきの健康は生活の質の向上に重要な要件である。 ・「みやぎ8020運動」を推進し、県民一人ひとりの健康状態やライフステージに対応した歯と歯ぐきの健康づくりを推進していくことが必要である。 ・結核は我国最大の感染症の一つであり、再興感染症として今後の増加の懸念が指摘されている。 ・加えて、インフルエンザやO-157等の感染症は、流行時には多数の罹患を示すものであり、県民の健康に与える影響も大きいことから、引き続き、結核・感染症の予防と正しい知識の普及啓発を図ることが必要である。 ・難病患者は増えてきており、住み慣れた地域で安心して生活できる環境づくりが求められていることから、引き続き支援していくことが必要である。 ・ノーマライゼーションの理念の下、高齢者・障害者が地域の中で当たり前の生活を送ることを可能にすることが求められている。 ・そのためには、各地域におけるリハビリテーションサービス供給体制の整備を目指す本施策が必要である。 ・覚せい剤等の薬物乱用は、一般市民層への浸透、青少年の乱用や主婦等女性検挙者の増加傾向が顕著になってきている。また、薬物乱用者の低年齢化も深刻な社会問題になっている。従って、本施策を継続的に取り組む必要があると考えられる。		
	3.8%	6位				
	3.5%	5位				

必要性のランク【結論】: 非常に感じている > かなり感じている > ある程度感じている > 比較的感じていない > あまり感じていない

A - 2 政策評価指標群の妥当性:規則 § 6 2号

適切 概ね適切 課題有

【施策の有効性を評価する上で適切か】課題有  
 ・指標としている「健康寿命」は指標としてはふさわしいと考えられるが、現況値を算出できないことから、新たな指標の設定を検討している。  
 【重視すべき施策に指標が設定されているか】適切  
 ・必要性を「大」とした施策全てに指標が設定されており適切である。

A - 3 施策群の有効性:規則 § 6 3号

有効 概ね有効 課題有

評価シート(B) A-3-1「施策の有効性」から

視点	政策全体	施策1	施策2	施策6			
政策評価指標達成度	判定不能	判定不能	判定不能	判定不能			
県民満足度	有効	概ね有効	有効	有効			
社会経済情勢	概ね有効	概ね有効	概ね有効	課題有			
全体	概ね有効	概ね有効	概ね有効	概ね有効			

A 政策評価(総括):規則 § 6

適切 概ね適切 課題有

・当該政策に関し、政策評価指標群の妥当性(A-2)についてはなお検討を要するが、施策群設定の妥当性(A-1)及び施策群の有効性(A-3)については、「おおむね適切」と判断する。

対象年度 H16

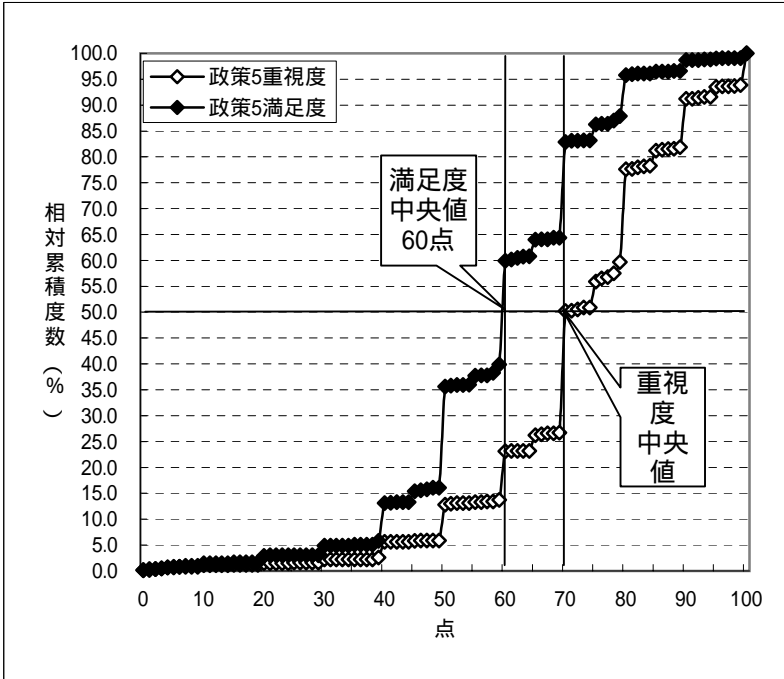
政策番号 1-1-5

政策名 生涯を健康に暮らすための健康づくりと病気の子防への取組

(1) 一般県民満足度調査結果

高関心度 59.9

高認知度 48.7



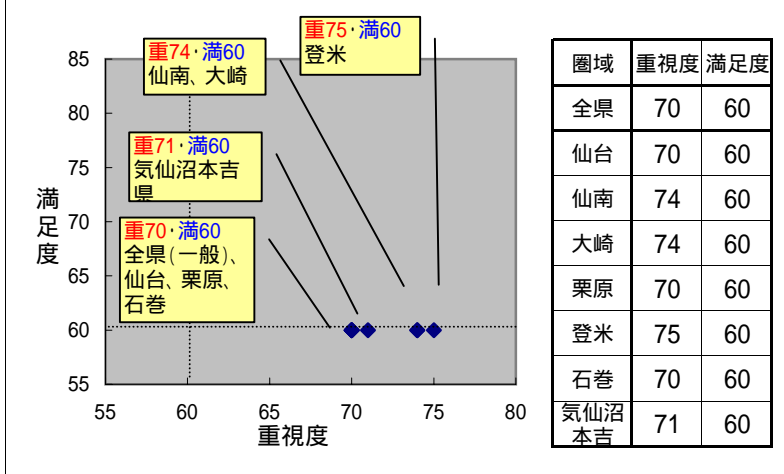
**高関心度**  
「政策」の内容に対する関心の高さを示す数値であり、満足度調査の関心度に関する設問中「関心があった」、「ある程度関心があった」を選択した回答者の全回答者に対する割合

**高認知度**  
「政策」の内容について知っている度合いの高さを示す数値であり、満足度調査の認知度に関する設問中「知っていた」、「ある程度知っていた」を選択した回答者の全回答者に対する割合

基本統計量

項目	重視度			満足度		
	一般	市町村	学識者	一般	市町村	学識者
中央値	70	80	80	60	60	60
第1四分位	-	-	-	50	50	50
第3四分位	-	-	-	70	70	70
四分偏差	-	-	-	10	10	10

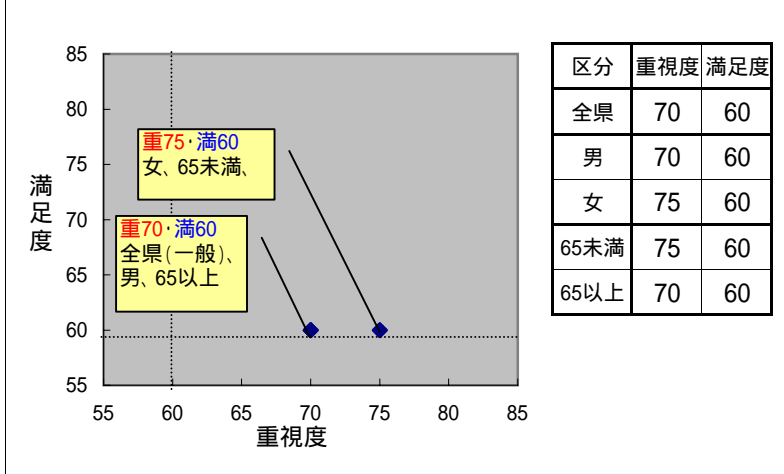
散布図



圏域別中央値(一般、市町村のみ)

圏域	重視度			満足度		
	一般	市町村	学識者	一般	市町村	学識者
仙台	70	80	-	60	60	-
仙南	74	80	-	60	60	-
大崎	74	80	-	60	60	-
栗原	70	79	-	60	60	-
登米	75	80	-	60	60	-
石巻	70	79	-	60	60	-
気仙沼本吉	71	80	-	60	60	-

散布図



男女別・年代別中央値(一般のみ)

区分	重視度			満足度		
	一般	市町村	学識者	一般	市町村	学識者
男	70	-	-	60	-	-
女	75	-	-	60	-	-
65未満	75	-	-	60	-	-
65以上	70	-	-	60	-	-

対象年度 H16

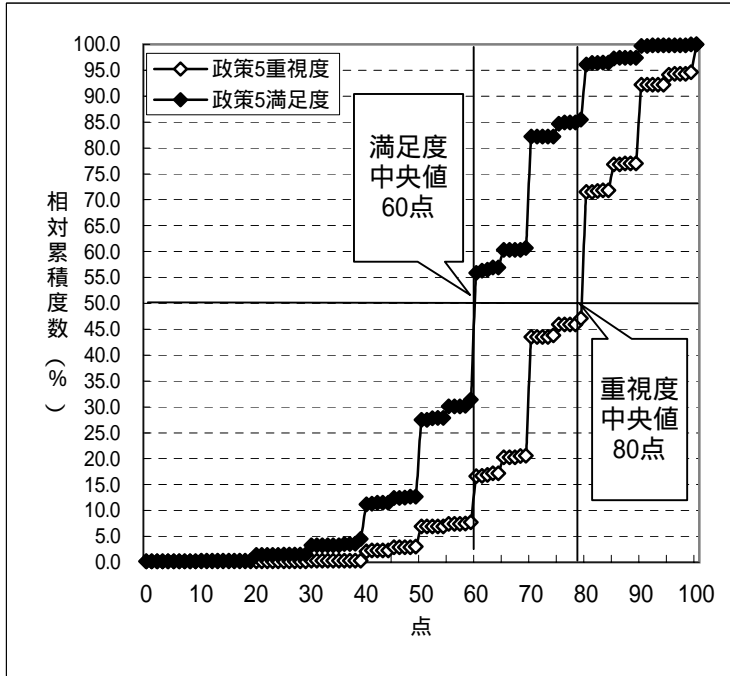
政策番号 1-1-5

政策名 生涯を健康に暮らすための健康づくりと病気の予防への取組

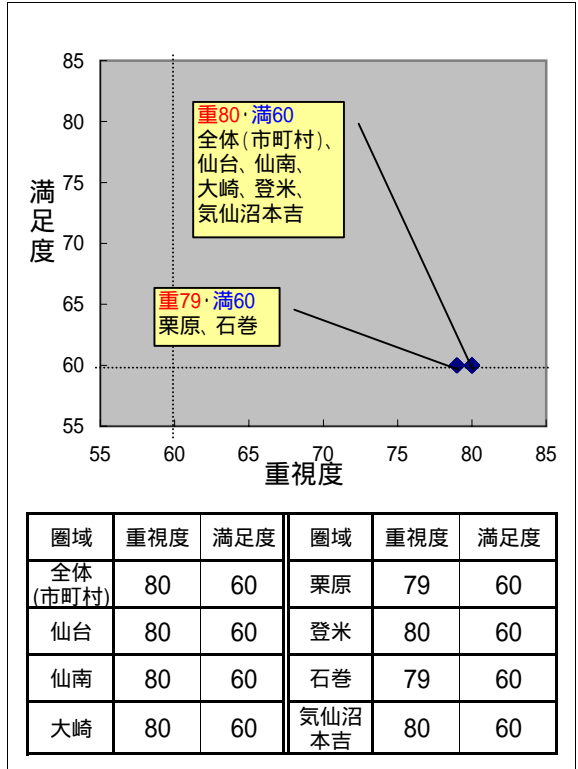
(2) 有識者(市町村) 県民満足度調査結果

高関心度 71.4

高認知度 72.2



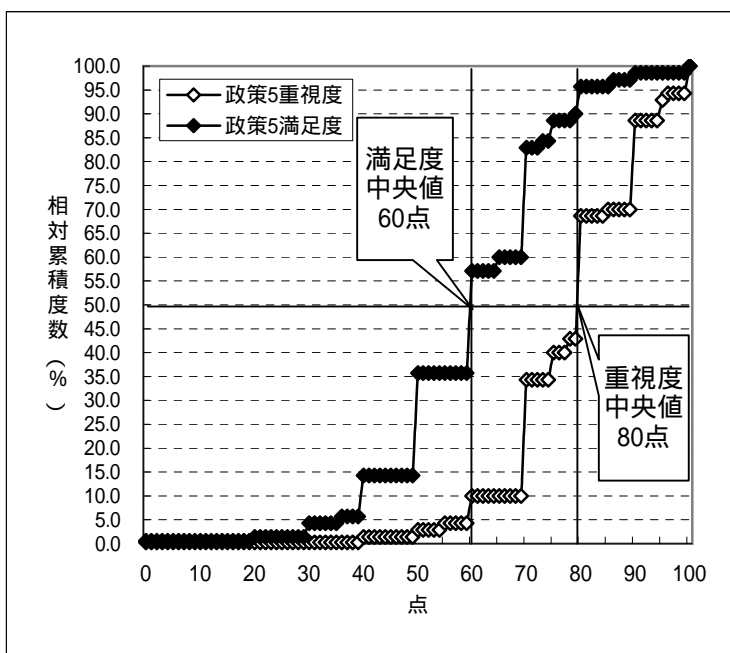
散布図



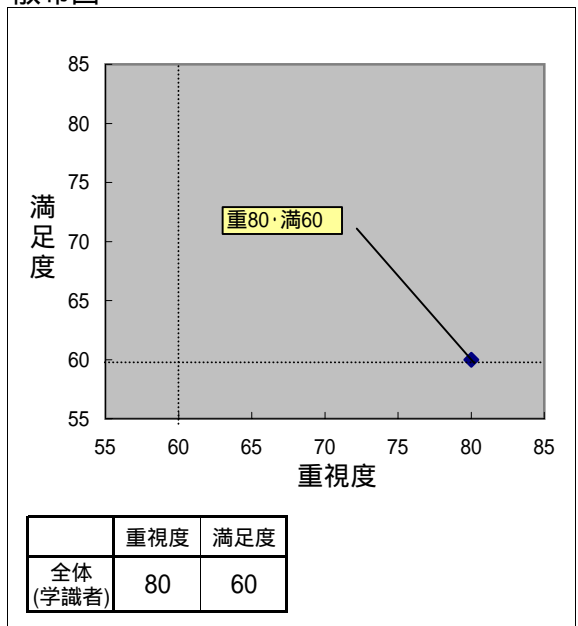
(3) 有識者(学識者) 県民満足度調査結果

高関心度 82.9

高認知度 78.6



散布図

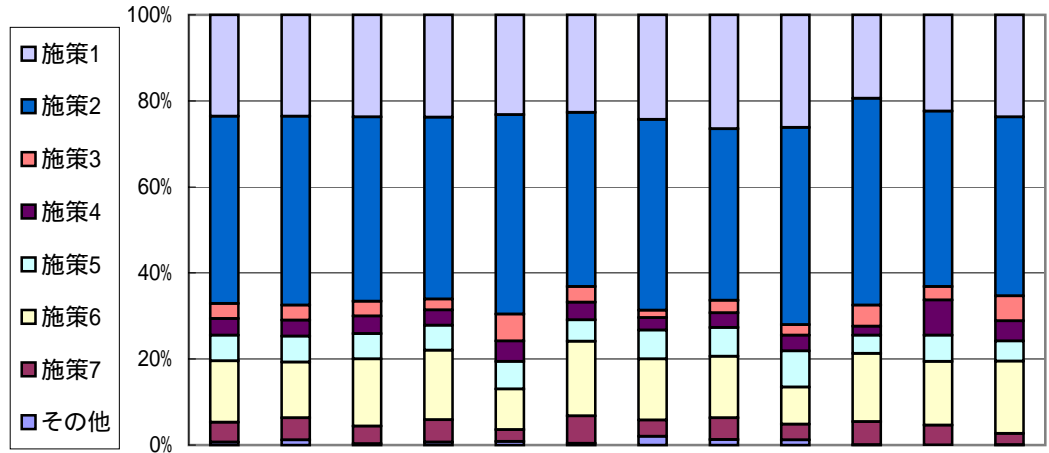


対象年度 H16

政策番号 1-1-5

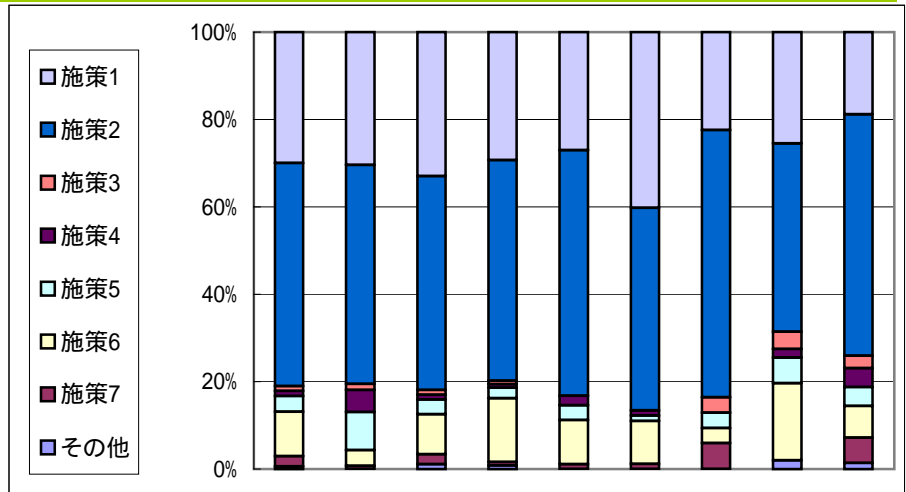
政策名 生涯を健康に暮らすための健康づくりと病気の予防への取組

(4) 一般県民満足度結果(施策別・優先度1位割合)



施策番号	施策名	全体	男	女	65未満	65以上	仙台	仙南	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼 本吉
施策1	健康づくりに関する意識の向上	23.6	23.6	23.7	23.8	23.2	22.7	24.3	26.5	26.2	19.4	22.4	23.7
施策2	生活習慣病の早期発見と予防	43.5	43.9	42.9	42.3	46.4	40.5	44.4	39.9	45.8	48.1	40.8	41.6
施策3	歯と歯ぐきの健康づくり	3.5	3.5	3.4	2.5	6.2	3.6	1.7	2.9	2.5	4.9	3.1	5.8
施策4	結核等感染症の予防と正しい知識の普及	3.9	3.7	4.1	3.6	4.8	4.1	2.9	3.4	3.6	2.1	8.2	4.7
施策5	難病患者等の健康維持の支援	5.9	6.0	5.9	5.8	6.4	5.0	6.7	6.7	8.4	4.2	6.1	4.7
施策6	地域リハビリテーションサービスの提供	14.3	13.0	15.6	16.1	9.4	17.3	14.2	14.3	8.7	15.9	14.8	16.8
施策7	薬物乱用防止啓発活動の推進	4.6	5.1	4.1	5.2	2.8	6.4	3.8	5.0	3.6	5.3	4.6	2.6
	その他	0.7	1.2	0.3	0.7	0.8	0.4	2.0	1.3	1.2	0.1	0.0	0.1

(5) 有識者(市町村・学識者)県民満足度結果(施策別・優先度1位割合)



施策番号	施策名	市町村優先度								学識者優先度
		全体	仙台	仙南	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼 本吉	
施策1	健康づくりに関する意識の向上	30.0	30.4	33.0	29.3	27.0	40.2	22.4	25.5	18.8
施策2	生活習慣病の早期発見と予防	51.1	50.0	48.9	50.4	56.2	46.3	61.2	43.1	55.1
施策3	歯と歯ぐきの健康づくり	1.1	1.4	1.1	0.8	0.0	0.0	3.5	3.9	2.9
施策4	結核等感染症の予防と正しい知識の普及	1.2	5.1	1.1	0.8	2.2	1.2	0.0	2.0	4.3
施策5	難病患者等の健康維持の支援	3.6	8.7	3.4	2.4	3.4	1.2	3.5	5.9	4.3
施策6	地域リハビリテーションサービスの提供	10.2	3.6	9.1	14.6	10.1	9.8	3.5	17.6	7.2
施策7	薬物乱用防止啓発活動の推進	2.3	0.7	2.3	0.8	1.1	1.2	5.9	0.0	5.8
	その他	0.6	0.0	1.1	0.8	0.0	0.0	0.0	2.0	1.4